

## テンポオーバーから学ぶ ～ステラジャム2018 集計結果の分析～

### <第一のどんでん返し>

大学生の部では、課題曲のテンポオーバーが9団体ありました。課題曲の得点を集計してみると、そのうち8団体は最下位から8つの順位（27～34位）を占めていました。テンポオーバーが大きなインパクトを与えることがわかります。

しかし、これら8団体がテンポオーバーしなかった場合、どれくらい順位が上がるかを試算してみたところ、意外な事実が判明。

27位 → 25位  
28位 → 26位  
29位 → 27位  
30位 → 27位  
31位 → 27位  
32位 → 27位  
33位 → 27位  
34位 → 28位

ご覧の通り、テンポオーバー減点がなくても、それほど課題曲ランキングに違いがないことがわかります。このことから、下位8団体はもともと課題曲を重視していなかったのではないかと考えられます。つまり、課題曲の練習不足ゆえにテンポオーバーしてしまった、とも推測できるわけです。

### <第二のどんでん返し>

では、課題曲のテンポオーバーはたいした影響を与えないのでしょうか？ ここで大学の部の総合ランキング下位11団体を見ましょう。

23位（同点）テンポオーバー  
25位 テンポオーバー  
26位 （特に減点なし）  
27位 テンポオーバー  
28位 ☆タイムオーバー  
29位 テンポオーバー  
30位（同点）テンポオーバー  
30位（同点）テンポオーバー  
32位 テンポオーバー  
33位 テンポオーバー  
34位 ☆タイムオーバー

11 団体中じつに 10 団体がテンポオーバーやタイムオーバーで減点され、最下位集団を形成していることがわかります。

特にタイムオーバーの影響は大きく、時間超過した 2 団体はいずれも大きく順位を落としています。彼らがもしタイムオーバーしていなければ、順位は以下のように跳ね上がります。

総合 28 位 → 総合 12 位  
総合 34 位 → 総合 20 位

大学生の部は、100 点満点に換算した場合、1 位と最下位（34 位）の差が 22.25 点しかありません。このわずかな点差の中で 34 団体が競い合っているのです。またノミニ-7 を見ると、1 位と 7 位の差は 3.75 点、1 位と 2 位の差はわずかに 0.25 点です。

テンポオーバー（5 点減点）やタイムオーバー（10 点減点）は、相当に大きなダメージを与えることがわかります。

#### <指揮者の重要性>

ステラシアターにおいて生音で演奏するにあたって、各セクションの音量バランスを把握する意味で、指揮者の重要性は大きいでしょう。テンポオーバーとタイムオーバーという二重のトラップ（罠）を回避する意味でも、指揮者は大きな役割を果たします。

さらに指揮者を置くことによって、正確な加速（accel）減速（rit）はもとより、音の強弱など表情豊かな音楽表現が可能になります。音楽面だけでなく、ショー的要素も加えやすくなります。

つまり指揮者が立つことには、これといったデメリットがなく、逆に大きなメリットがあるわけです。ここで来年に向けての大きな戦略を描くことができます。すなわち、

- 1.課題曲には指揮者を立てる
- 2.テンポキープの練習を徹底する
- 3.MC を含む通し練習で時間感覚を磨く

などが基礎固めに役立つでしょう。また、リアルタイムコメントを聞き込むことで、さらに詳細な Get Better のための情報が入手できます。

点数集計の分析結果を、今後の練習に役立てていただければ幸いです。

ステラジャム実行委員会